

昭和31年8月30日鹿児島入港

- | | | | |
|----------|-----------|---------|-------|
| (三) 使用船 | 試験船 照南丸 | 98屯 | 300馬力 |
| (四) 視察人員 | 鹿児島県水産試験場 | 西田場長外5名 | |
| | ／ 漁政課 | | 1名 |
| | 市町村職員 | | 4名 |
| | 漁協関係者 | | 14名 |

定置網漁場調査

又木勝弘

※調査目的

過去3年間に於いて散発的ではあつたがこの種の調査を行つて来た。そして比較的よい効果を挙げて来たことも事実である。本年度はこの調査を或る程度組織的、永続的に試みて確たる効果を追及しよとした。

そしてその効果次第によつては県下百数十統の定置網に及ぼし本漁業発展のために精力的努力を傾けようとするのが狙いであつた。先づ手始めに本県定置網漁業で最も活気を持つと思われる内之浦灣の調査を試みた

※調査地

肝付郡内之浦町

※調査対象

落、網、(主として中、小型)地曳網漁場、海藻繁茂地調査及び潜水講習

※調査船

潜水調査船さぶなみ 25ts ヤンデージェル11HP 潜水器、ナルギール(エヤーコンプレッサー付) 及アクアラング

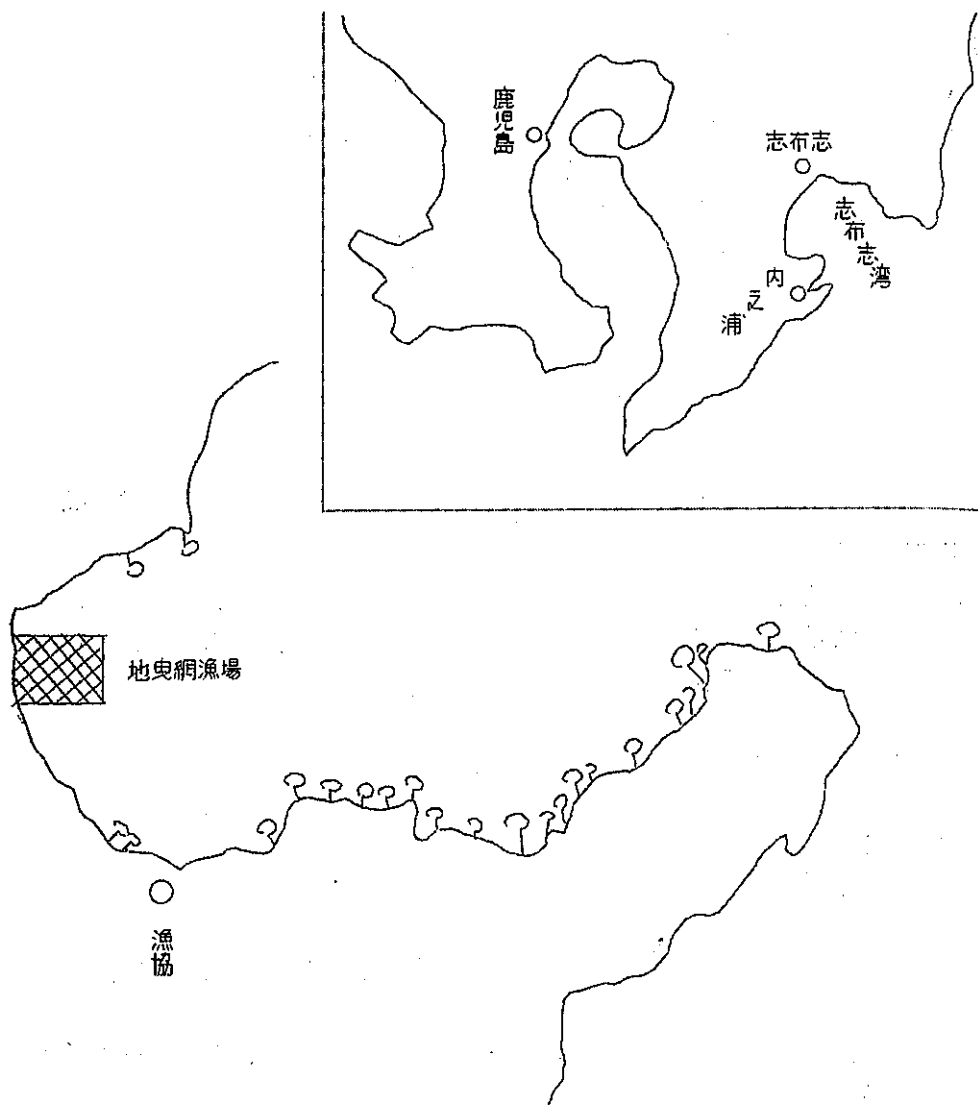
※調査期間

自8月4日 至8月25日

※調査員

本水試 又木、山之内

内之浦漁協 東泊俊行、東泊俊哉



- 1 桃野木
- 2 津代下小型
- 3 津代
- 4 山崎浜(マス網)
- 5 山崎
- 6 倉之下
- 7 二子東
- 8 二子瀬
- 9 二子瀬西
- 11 階切瀬
- 12 東脇
- 13 白木西脇
- 14 白木
- 15 小湊
- 16 鍋ヶ原下
- 17 国貝瀬
- 19 小白木
- 20 加治屋下(マス網)
- 21 台揚下
- 22 高瀬下
- 23 地藏下

(効 果)

- (1) 地曳網漁場の障害物除去（直径1.5m長さ6mの木材）過去に操業せし地曳網の破損網がこの大木に相当巻きついていた。水深20m
- (2) 台場下中型定置、調査、道網の障害物除去一破損せし運搬船の舷側巾1間長さ3間重量約100貫を陸上に引揚処理をなす。昇り網のアシマ（沈子のところ）がワシタ（心張のこと）の下にひきよせられていて昇り網本来の用をなさず水深20m
- (3) 加治下マス網 石塊5個引揚ぐ平均20貫 水深10m
- (4) 白木漁場 道網異常なし。昇りに張り工合よし他に異常を認めず。
- (5) 階切瀬漁場 道網約10k高瀬にかゝるを見る処理をなす。約10k水深20m
- (6) 国見瀬漁場 昇り網突当り、羽口附近にて石塊21個引揚ぐ、平均20貫 潮流速きとき道網海底より約3k吹きあげる欠陥あり、昇り網石塊のためこれにかゝりて破損。水深18m
- (7) 赤石漁場 平均15貫 石塊4個 昇り1個 昇り網の張り方に欠陥あり。アシマが心張下にひきよせられていた。
- (8) 双子瀬、西脇 平均5貫の石塊道網から羽口にかけて10個あり昇り網の張り方大体よろしい。
罎、突当り海底より約1kの隙間あり前辺りの立碇が罎のアシマに寄せられてまとまっている。
- (9) 二本松東側
道網のタチ碇、土嚢の砂が全部洩れて碇の用をなしていない。道網、羽口昇り、突当りにかけて石塊15個平均15貫前返しが罎のアシマに寄せられていない。
- (10) 山崎漁場
昇り網のアシマが心張り下にひきよせられている。罎不完全前返に罎のアシマ集結
- (11) 桃の木 木の下漁場
昇りの附近から～たまり附近と思われる。（網が敷設してない）個所に20貫程度の石塊10数個あり責任者立合わないため処理せず。
- (12) 海蔵一号
道網の立碇の敷設工合不完全、道網と下の返しの昇り附着していず、その隙約6K、前のカエシに罎のアシマが寄せられていた。昇りのアシマは大体良好道網は2号の台の碇が約1K位あいていたが魚群導入にさしたる影響はないと思われる。
- (13) 海蔵二号
道網のトツ付より急激に海底が深くなっている。海底は岩石であるが道網に

損傷を与えるような瀬ではない。

羽口の四間位前より浜となつている。道網の昇り立碇の敷設状況悪し昇りのカエシのアシマが突当りの圍の下の瀬にかゝつている。

(14) 地蔵下

昇り異常なし。羽口下の碇網の中間に羽口道網のアシマが海底より約8K位のすきあり。その為魚群入網に支障が見られた。道網の地から20K位の大瀬3個あり。

(15) 小白木漁場

たまり下石塊10貫引揚ぐ。